

企画
第2弾

市内の **パワー スポット** を巡る

昔話に出てくる伝説の地や人々の信仰の場として親しまれてきた土地、歴史的建造物などが市内にはたくさんあります。

今回は、高校生が「元気が出る」「歴史的な空間を体感できる」などとして選んだ5つの場所を、写真とともにご紹介します。



① なみのうへ ぐう **波上宮** 場若狭 1-25-11

安産や家内安全、恋愛成就のために訪れる人も多いと思います。古くから人々の信仰の場として親しまれ、理想郷とされていたニライカナイへの祈りを捧げる聖地でありました。琉球八社第一位として王府から崇められる存在だったそうです。また、琉歌にも詠われるほど、月がよく見える景勝地であったとか。境内には魔除けとして、神社では珍しいシーサーが立っているのも見どころです。



③ おきのぐう **沖宮** 場奥武山町 44

琉球国時代の15世紀中頃、国王が那覇港内で不思議に輝く古木(霊木)を発見。その地に社を建て、航海安全の神として国王を始め広く人々に崇敬されたことに始まります。戦後、松の景勝地として知られ、昔から信仰の場所でもある神地天燈山御嶽のふもとに沖宮を再建。神世12子を祀る住吉神社、八坂神社、弁財天宮も、同境内地内に御鎮座しています。



うえ ばら ゆう あ か とう たつ き きんじょう ひろ き
上原 由蒼さん 加藤 龍樹さん 金城 大己さん

● 記事作成を終えての感想 ●

僕たちは、授業の中で「市民が読みたくなるような広報紙作り」に取り組み、パワースポットの特集を提案しました。始めはこの課題がとても難しく思えて、しつかりまとめられるか不安でしたが、最終報告まで上げることができて嬉しかったです。また、取材を通して市民が読みたくなるような広報紙作りに協力していることが実感できました。



② たまうどうん **玉陵** 場首里金城町 1-3

歴史書『琉球国由来記』によると、今から約520年前の1501年に創建されたとされています。尚真王が父尚円王の遺骨を見上森から移葬するために築きました。中室、東室、西室の3つの建築物に分かれており、中室は葬儀の後、当時の琉球の葬制に基づき遺骸が骨になるまで棺を安置し、次に葬儀が執り行われた際に骨を取り出して洗骨したそうです。洗骨した後に遺骨を骨壺に収め、王とその妃の骨は東室に、他の王族は西室に納められています。



④ うちかなぐすくたき **内金城嶽** 場首里金城町 3-18、20

東側に「大嶽」、西側に「小嶽」の二つの御嶽があります。御嶽は神を祀る聖所であり『琉球国由来記』によれば、その昔、ここで真壁大阿母志良礼が祭祀を執り行っていたそうです。敷地内には樹齢200年を超えるアカギの大木があります。また、「小嶽」は沖縄に昔から伝わる“鬼ムーチー”の由来となった場所でもあります。



⑤ ふくしゅうえん **福州園** 場久米 2-29-19

中国の福州市と那覇市の友好都市締結 10 周年、並びに市制施行 70 周年を記念して建設されました。中国の雄大な自然と福州の名勝をイメージした園内には、季節を感じさせる樹木や草花で四季折々の景観を演出しています。また、建物には福州市産の資材が使用されており、出入口として東西南北に設けられた門はそれぞれ違う様式となっています。

※現在は工事のため休園中。令和4年度内に再開を予定しています。